

聖母マリア教区教会にお越しいただきありがとうございます。本教会はエセックス最大の教会で、全長55.8m、塔および尖頂の高さが58.8mあります。

エセックスの地名の起源であります東サクソン人は異教徒でありました。しかし、紀元後7世紀に聖セッドによりキリスト教に帰依した後、この地にサクソン人の木造教会が存在していたことはほぼ間違いありません。1130年に存在していたとされます大規模なノルマン式石造教会が1250年から1258年の間の「文飾式」（13世紀末—15世紀初頭の英国ゴシック第2期の様式）期の初期様式に増改築されました。「垂直式」（英国ゴシック末期の様式）期による総改築が1450年頃に開始され、現在の教会は英国教区教会中でも建築様式上高い地位を示すものであります。しかし、尖頂および上塔は1832年にリックマン及びハッチソンにより再建されたものでありますから、比較的新しいものであります。

教会内へお進みいただき、荘厳な「身廊」をご覧ください。奥行きと15mを越える高さは感動的で「垂直式」期の傑作として注目されています。15世紀の重要な教会建築者の一人でありましたジョン・ウエイステルが建築を担当いたしました。身廊の西端にサフロン・ウォールデンのバトラー卿、リチャード・オースチン（1902-1982）所属のガーター勲章が掛かっております。この旗は本来ウィンザーの聖ジョージ教会堂のバトラー卿の座席に掛けていたものであります。本町名はサフランに由来するもので、18世紀末までに約400年間に渡りこの地方で広く栽培されたものであります。屋根裏と三角小間には、本教会に寄進しましたチューダー朝の名家の紋章とならびましてサフランを描いたものがありますが、身廊および屋根裏浮き出し彫りの彫り物を詳しくご覧頂くのには、双眼鏡が必要であります。1660年の勅令によりまして、どの教会にも掲げられるようになりました、王の紋章が塔のアーチに付けられています。塔にはエセックス最大の響きを持つ鐘の一つでありま12ヶ編成の鐘が入っています。8ヶの鐘はもとの鐘の材料を利用し1798年に鑄造され、残りの鐘は1914年に追加されたものであります。サフロン・ウォールデンの鳴鐘者会は、300年の歴史を持つ英国最古の会の一つであります。

左の北側廊にお進み下さい。北柱廊（現在の聖具室）に通じます扉は約500年前のものとされています。北側の壁にある真鍮プレートは、マサチューセッツ州ドーチェスターの創設者の一人、ジョージ・ミノットの記念碑で、とりわけアメリカ人の来訪者には興味深いことでしょう。壁面に固定されました9枚の真鍮墓像の上に載せられています天蓋形ひさは精巧で、切断されていますが、13世紀「文飾式」期教会からあるものです。この真鍮聖像はすべて過去数百年の間に顧みられることなく、理不尽にも破損されるのをのがれたものであります。最東端の窓は、1820年から1884年に渡りオルガン奏者でありましたジョン・トマス・フライを記念するもので、フライは若干8才にして競争試験によりオルガン奏者に任ぜられた人であります。

北礼拝堂にお進み下さい。この礼拝堂は1526年頃に再建されました。無装飾「大理石墓所」は1489年以来1521年に亡くなるまで教区牧師でありましたジョン・リーチのものであります。ジョン・リーチと妹のジョアンナ・ブラットベリー婦人は本教会にとりまして物惜みしない後援者でありました。祭壇上の「絵」は1793年に初代ブレイブルック卿により寄進されました。パルマ美術館所蔵のコレージュの有名な16世紀絵画「聖ジェロームと聖母子」をピーターズが200年前に模写したものであります。伝承によりますと「内陣屋根」はトーマス・オードリーにより、サフォーク県のサドベリーにありますが聖グレゴリウス教会から持ってきたものとあります。「内陣柱」は13世紀以来のものであります。「内陣仕切り」と「内陣高廊」は1924年に寄進され、感動的な内陣十字架像は1951年に入手されました。この年には、高廊にオルガン演奏台が設置されました。その「オルガン」は1824年製で、1971-2年に完全に増改築され、現在では最上の大聖堂オルガンと並ぶものであります。

貴重なものであります「王のトランペット」は南側廊からご覧いただけますが、これは英国内でいまなお珍品とされています。この「王のトランペット」がはっきり身廊の方向に向けられているのがわかります。内陣仕切りをお通りいただき南礼拝堂にお進みいただきますと、この礼拝堂を建立しました「オードリー大法官のベルギー産国石板墓所」がご覧いただけます。お戻り際には南側廊にあります聖母マリア（本教会は聖母マリアに奉納されたものであります）と聖大ヤコブ（ウォールデン修道院と旅人の守護聖人）の立派な「現代彫刻」にご注目下さい。この「現代彫刻」は1920年に入手しました。チャペル・オブ・リメンバランス（追想の礼拝コーナー）にありますこれらのスタンドは、1998年に設けられました。更に先にお進みいただき、左側をご覧ください。サフロン・ウォールデン町議会の先駆けとなった、ホーリー・トリニティー・ギルド（三位一体の商人団体）は、南ポーチの上にある「ミュナメンツルーム」（重要書類を保管する場所）で集いました。前方、15世紀末の「八角聖水盤」にはオークを彫りました現代製の蓋がついています。西の大窓にあります「円形浮き彫り」は本教会唯一の宗教改革前のガラスで、アンジュ（フランス）のマーガレット王妃の肖像とされ内乱（1642-49）をくぐり抜けてきたものと言われております。右手、北側廊の西窓は、マザーズユニオンの旗のデザインを元に「聖アンナと聖母子」を象徴し、2000年を祝うものであります。

本教会の図入り案内書、絵葉書、本教区誌、書物及びパンフレット類は西口でお求めいただけます。本教会の建造物は、数年にわたります大改修・復元計画によりまして、現在は使用できる状態にありますが、この程度の規模と重要さを誇る本教会の維持管理費は巨額にのぼります。つきましては、わずかなりともご寄進いただけますようお願い申し上げます。ご寄進は青い寄進箱にお入れ下さい。

聖母マリア教区教会をお訪ねいただき、お楽しみいただきましたことと存じます。本教会礼拝の詳細につきましては告知板に記してあります。ご都合のよろしい折に本教会の信仰生活にご参加いただけますことを衷心よりお待ちしております。ご帰路のご無事をお祈り申し上げます。



# サフロン・ウォールデン SAFFRON WALDEN 聖母マリア教区教会 ご案内